

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	8	学校名	岐阜城北高等学校
------	---	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 心身の錬磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 基本的生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組む、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲ある生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力の定着と、目的をもって自主的・主体的に学ぶ生徒の育成 社会の変化に柔軟に対応し、地域社会の発展に貢献できる生徒を育成するための「探究的な学び」の構築 魅力的で特色のある教育課程の編成と、本校の魅力を発信するための広報活動 生徒の多様な進路希望を実現するための進路指導の充実 基本的生活習慣の確立と、社会の一員としての基本的なマナーの育成 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	基礎的・基本的学力の定着を図り、目的をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成する。授業を大切にし、生徒一人一人が授業で充実感をもてるような指導方法の工夫、分かる授業、活気あふれる授業に努める。
	生徒指導	基本的生活習慣の確立と自他の「生命」を尊重する態度や思いやりの心を醸成する。共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる。安全で安心して生活できる学校をめざす。
	進路指導	地域の企業や関係機関と連携して地域の様々な課題について取り組むなかで、多様な人と協働して学ぶ姿勢を育む。生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描けるような場を創造し、その実現のため個に応じた支援を行う。
	その他	学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、将来の職業選択を視野に入れた学びができる生徒を育てる。学校行事や生徒会活動、部活動などを通して、岐阜城北生の一員としての自覚と責任感を持たせ、自主的な行動の習慣と自己を生かす能力の育成に努める。

年度目標				年度末評価(自己評価)					
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画での 位置付け		達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標		取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	定期考査に向けた出題範囲表を配付する等、生徒が学習活動に積極的に取り組めるようにする。	8	施策Ⅱ-8	・学校評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果 ・学習成績の推移 ・新しい授業・科目の設定の準備状況	・授業評価アンケート等の結果をもとに各教科で授業改善の方策を検討した。 ・学校評価アンケートの結果から、「授業は丁寧で分かりやすい」と高い評価であったが、「ICT機器を有効に活用した授業実践」においては約78%、「外部の教育資源の活用」においては約67%の肯定的回答にとどまった。 ・JIPの設定等、ドローンの活用やアバターを使った保育など、新しい授業に向けた準備を本格的に開始した。	B	○授業改善を継続的に行ってきたことにより「分かりやすい授業」について一定の成果を得られつつある。今後もICT機器の活用を含め、生徒の理解に繋がる授業、興味・関心を喚起できる授業を目指した取組を実施したい。 ▲保護者に本校の教育活動をより知っていただくよう、月1回「城北だより」を発行し、情報発信に努めているが、十分ではない。 ▲成績不振者が多く、特別懇談により支援しているが十分ではない。個に応じた指導、学習習慣の確立に向けた支援が急務である。	B	
	授業評価アンケート結果や公開授業週間による教員相互の参観等を通じて授業改善を行う。	8	施策Ⅱ-8						
	ICTに係る研修会を実施し、タブレットを活用した授業や主体的な学びにつながる授業を実践する。	9	施策Ⅱ-9						
	新しい授業・科目（「JIP」）の設定を通じて魅力ある教育課程を編成する。	20	施策Ⅳ-20						
生徒指導	「させる指導」から「支える指導」へ意識をシフトし、自らを律する姿を育てる。	1	施策Ⅰ-1	・学校評価アンケート ・生活習慣や規範意識の確立にむけて、全職員が連携して指導できたか。 ・いじめの未然防止や不登校支援が「チーム学校」としてできたか。	・アンケートの結果、生徒指導全体の取組についての評価は、保護者の方は「わからない」という回答が多く、生徒の評価はA・B合計が80%を超えている。 ・いじめや差別など「心」の教育については担任、部顧問、学年主任などと密に連携をとり、細やかな情報収集と早期対応に努めた。 ・「チーム学校」として職員が連携して指導にあたるよう、全校体制で身だしなみ指導を基にマナー指導にあたった。	B	○身だしなみ指導については、全職員で指導をする体制づくりをしたことで生徒には学校全体としての思いを示すことができた。 ▲一方で、アンケートの結果、保護者の評価は生徒より低いため、保護者に学校の方針が十分に伝わっていないと感じる。家庭と連携をとり、協力しながら生徒を育てていきたい。 ○いじめへの対応や教育相談など、生徒の心に寄り添った指導について、引き続き生徒が安心して相談できる体制を整えておきたい。	B	
	いじめや差別、暴力行為などの早期発見に努める。生徒の「心」のサインを見逃さないように全員体制で臨む。薬物乱用防止講話やひびきあいの日の活動等を通じて、自己や他者を尊重する意識を高める。	2	施策Ⅰ-2						
	社会の一員としての基本的なマナーを身に付ける。社会規範やモラルを遵守する意識を高める指導を行う。	3	施策Ⅰ-3						
		7	施策Ⅰ-7						
進路指導	「新しいキャリア教育」で、地域の企業や関係機関と連携した課題解決型の探究活動を実施する。課題解決力や多様な人と協働するコミュニケーション能力、自己表現力を高める。	1	施策Ⅰ-1	・学校評価アンケート ・実施者アンケート (生徒、教員、企業)	・「新しいキャリア教育」は実施中（R7年5月に発表会を実施予定）である。多くの生徒が、仮説の検証、課題解決の実施を終え、取り組みの考察と発表の準備に取り掛かっている。 ・企業と連携した探究活動に対し、32%の保護者が「分からない」と回答している。 ・89%の生徒が、「希望に沿った進路指導が行われている」と回答している。 ・「城北塾」に参加している生徒は、他の生徒以上の学習（国・数・英）を進めている。個人により差はあるが、英検2級取得も視野に入れながら学習を進めている。R7年1月に3回目の実力診断テストを実施。	B	○初めての取り組みであり、発表会を終えて振り返る必要がある。地域の企業や関係機関との細かい課題はあるが、概ね計画どおり進んでいる。 ▲保護者への情報発信を工夫する必要がある。引き続き連携を深めて続けていきたい。 ○キャリアカウンセリングについては、学科の特性からも、継続して実施したい。 ▲進路目標をより具体的にする指導と、学習習慣を定着させる取組を充実させる。	B	
	キャリアカウンセリングやキャリア・パスポート等を活用し、きめ細やかな進路支援の充実をはかる。	4	施策Ⅰ-4						
	「城北塾」で、将来の地域産業を担うリーダー的人材の育成をはかる。	13	施策Ⅱ-13						
		14	施策Ⅱ-14						
その他	「城北わいわい広場」や市役所との連携、地元小学校等との交流を通じて、地域に対する愛着を育む。	1	施策Ⅰ-1	・学校評価アンケート ・授業評価アンケート ・交流活動の実績 ・実施者アンケート (生徒、教員、連携先) ・各種検定、コンテストの実績	・地域の担い手育成総合戦略事業への取組や、総合的な探究の時間での学習において、系列・コースの特色を生かしながら、地域の企業、行政、教育機関と関わる学習や交流活動、行事を実施した。 ・学校評価アンケートの、「外部連携を生かした教育活動が積極的である。」の項目では62～67%が当てはまると回答することとどまった。「コンクールや検定への積極的な取組がなされ、知識や技術の定着に役立っている。」の項目では、85%が当てはまると回答し、高評価を得られた。	B	○地域と連携した協働的な学習を通して、生徒の地域理解の深化、主体性や専門的スキルの向上等の効果が得られた。今後も発展・充実を図りたい。 ▲保護者や外部への情報発信を工夫し、PR活動を充実させる必要がある。 ▲来年度から「岐阜城北わいわい広場」と卒業発表会を併せた行事として12月に実施する。生徒の学習活動として、より効果的な在り方を企画し実施する。	B	
	地域資源を生かした体験的・探究的な学習を行い、将来の地域振興を担う人材を育成する。	13	施策Ⅱ-13						
	大学や企業と連携して技術・技能を学ぶ機会を提供し、高い専門性とICTや多様なメディアの活用能力を養う。	14	施策Ⅱ-14						
	学校行事や部活動の充実を図り、規律ある望ましい校風を確立する。生徒の充実感や達成感、連帯感を高める。	5	施策Ⅰ-5						

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月5日

<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上及び学習習慣の確立のための取組を工夫する。授業規律を徹底し、目的をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度の育成を目指す。遅刻・欠席の防止に努める。 学校設定科目（「JIP」）の開設・拡大について積極的に検討し、魅力ある教育課程を編成する。 端正な身だしなみと、規範意識や社会的なマナーを遵守する意識を高めるため、全職員による指導を徹底する。 学校行事やLHR活動、グループワーク等を通じてコミュニケーション能力を醸成し、望ましい人間関係の構築ができる生徒を育成する。成果を認めることで、自己肯定感を高め、自他を尊重する精神を培う。 外部の教育力を活用し専門教育の深化を図る。「総合的な探究の時間」をはじめとして、地域と連携した協働的な学びを一層推進する。 「岐阜城北わいわい広場」（11月実施）と卒業発表会（1月実施）を併せて、12月に実施する。行事のスリム化を図ると同時に、これまで以上に、地域貢献とともに、本校への理解を深めてもらえる行事とする。 保護者や地域、中学生等への効果的な情報発信・広報活動を推進するための校内組織のあり方を検討する。
--

学校関係者評価

実施日：令和7年2月12日

<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上を図るため、中学校までの内容の「学び直し」はとても必要である。今まで以上に実施する機会を作ってはどうか。 コミュニケーション能力は非常に重要である。行事や物事への取組、様々な活動を通じて育てられる。それらに一生懸命取り組むことで達成感や充実感につながる。その姿勢を認めて育てることが大切である。 企業と連携しての探究活動はとても良い試みである。地域や企業と協働した専門学科ならではの取組、探究的な取組を一層推進してほしい。 いろいろなところで、昨年度、今年度の見直しがなされている。PDCAサイクルで評価・改善がされている。教育の激変期である。社会の変化に対応した教育を進めてほしい。
--